

# 自分の 「やりたかったこと」が まちの風景に

鬼みちの一画、旧道坂の  
家族の物語

旧道坂のお福さん  
ミニギャラリーJIN

岩月裕子さん  
仁さん



旧道坂で生まれ育った旦那さんの想い入れと、おたふく・ひよっところが大好きな奥さん、そんな母に中学時代「お福さん」の人形をプレゼントに買ってきた娘さん、そして、14年前、事故の後遺症からの復活のために絵を始めた息子の仁（JIN）さん、家族の想いのつまったお店。

なだらかなカーブを描く「旧道坂」。景観イメージにぴったりなお店は平成16年に開業。住まいの部分は15年くらいは経っているだろうという。屋根に3つのついている「お福さん」は、特別にお気に入りの人形をもとに、市内の瓦職人さんに作ってもらった。

裕子さんは熊野市（三重県）の出身。父親が瓦焼の燃料となる木材を船で運び、帰りは瓦を積み、地元で商っていたという。それが縁で、廻船問屋であったこの家に嫁いだ。

「もともとは、カメラ好きの主人にくっついて、あちこち旅しては土地の人との触れあいを楽しんだり、民芸品・工芸品を少しずつ集めるのが趣味でした。

歳をとったら、そういう小物を飾って、近所の人がお茶に寄ってくれるような場所を作りたいなど、漠然と思っていたんですが、直接



「仁くんって皆さんが声をかけてくれて、  
ほどよく緊張して店にでるのよ。」

のきっかけは、息子が交通事故に遭ったこと。会社に行っても、後遺症で前のようにはできない。自宅の仕事ができればと家族で一念発起。改築して開業したんです。ここなら、近所の人から声をかけてもらえる環境で、自分のできることをしていきけるかなと思って。」

仁さんは事故後、3年間入院。裕子さんは夫婦で通い、マヒした手に色鉛筆を持たせて、描くことを促し続けた。

再起は難しいという医師の見立てに抗うかのように熱心にリハビリを続け、今は店に立つ。描く絵は、線も色も柔らかくて優しい。

「家族や店のことで手一杯で、地域に貢献…なんてやれてきていないと思うんだけど、子どもが幼稚園や小学校のころに役員をいっしょに務めたお母さんたちが、今でも店に来てくれるの。あれこれ話して力づけあえる、いい仲間です。」

お店の営業は週末だけ。ちよつとたまった疲れを、お福さんの笑顔と温かい飲み物が癒してくれるはず。



青木町三丁目6-1  
☎53-0433  
金・土・日のみ営業



お福さんがお店のあちこちに!娘さんからの贈り物の人形の後ろには、仁さんの描いた羊。取材のときも申の年賀状を製作中でした。

